

出題年度：2026 年度

<問 1>

【出題意図】

「ことば」と「社会」の相互関係についての理解力・思考力・表現力を総合的に問う。提示文を踏まえて自らの考えを論理的に展開できるかを評価する。具体的な出題意図は次の3点である。

1. 文章読解力・理解力の評価

提示文における「社会反映論」と「社会構築論」を正確に把握し、「セクハラ」という語の誕生が社会を変化させたという趣旨を把握できるかを見る。

2. 事例選択・思考力の評価

自らの考えに即して、ことばが社会の見方や行動を変化させたと考えられる具体例を適切に選び、その因果関係を論理的に説明できるかを問う。

3. 論理的文章構成・表現力の評価

提示文の主題と自分の意見を結びつけながら、論理的、かつ、わかりやすく記述できるかを確認する。

【模範解答（評価ポイント）】

以下の要素を持って、内容を評価する。

- ・提示文の趣旨を正しく理解している。「ことばが社会を変える力がある」という主張を把握している。「セクハラ」の例の意味を正確に捉えている。
- ・「ことばの変化」と「社会の変化」の関係という問いに的確に答えている。テーマからそれず、「社会構築論」を踏まえて論を展開している。
- ・「セクハラ」以外に、ことばが社会を変えた事例を1つ以上挙げている。「パワハラ」「LGBTQ」「ジェンダー平等」「多様性」「SDGs」など、時代性のある言葉を選び、内容が説明されている。
- ・論理的な展開があり、主張と事例が自然につながっている。
- ・独自の視点・新しい角度からの考察を評価する。